



3

二つの出来事を紹介し
ます。

夏休み、飼育委員会の子どもが当番で学校に来ました。しばらくすると、6年生2人が職員室を訪ねてきました。「お願いがあります」と切り出したので、日直の先生が出ると「ウサギ小屋の掃除で使いたいの、紙をください」とのことでした。先生は「お疲れさま。頼みますよ」と、手元にあった古新聞を手渡しました。すると、2人は戸惑うように顔を見合わせたあと「やっぱり、いいです」と新聞を返し、ことばを続けました。「先生、新聞紙はダメです」と。

日直の先生は、戻された新聞を持ったまま、しばらく立ち尽くしていましたが、やっとその理由にたどり着きました。NIEを始めてから、先生方が子どもたちに言い続けてきた言葉でした。それは「記事は、記者さんが何度も取材して、何度も確かめて書いた作品です。だから、新聞は大切にしましょう」でした。季節が移り、新年を迎えた学校では、冷たい空気の張り詰めた体育館で、学年合同の書き初めが始まりました。床一面に敷かれた新聞紙の上で6年生一人一人が集中して筆を運んでいました。子どもたちが書き上げた頃を見計らって、担任が「終わった人から片付けなさい」と声を掛けました。ところが、担任自慢の「N

せきぐち・しゅつじさん
1955年東京生まれ。
東京学芸大を卒業後、東京都公立小学校教員として勤務。その間(91〜2007年)、群馬大教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。

NIEはドラマをつくる

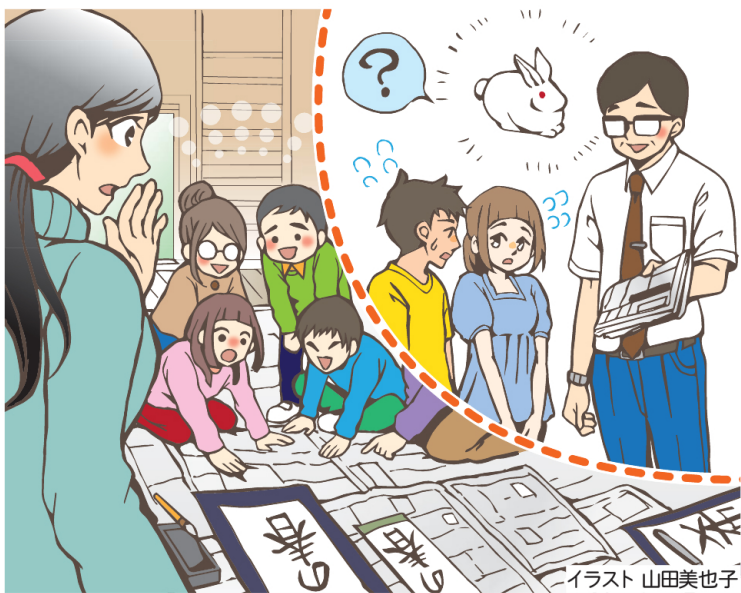


イラスト 山田美也子

「Eで育った子どもたち」は、その言葉に耳を貸す気配もなく片付けようとしてません。果ては、数人ずつ集まって何やらしゃべり出す始末。日頃穏やかな担任もさすがに笑顔を失い、しやべる一団に注意しようと思を進めました。その時、担任の見たものは…。

下敷きにしていた古新聞を囲んで「懐かしいな。この記事」「これ、夏休みのEで育った子どもたち」ときだったね」などと、話し合う子どもたちの姿でした。3人の担任は見守るしかありません。その日の給食は20分遅れて始まったと聞きました。

新聞の楽しさに出会ったことのない子どもであれば、まず起こることのない二つのドラマでした。

（日本新聞協会NIEコーディネーター 関口修司）
|| 次回は10月1日掲載 ||